

HP OpenView Performance Agent

for Windows[®] オペレーティング システム

ソフトウェア バージョン : C.04.50

インストール、設定ガイド

Manufacturing Part Number: B7491-99052
2005 年 10 月



ご注意

保証書

当社では、特定用途に対する適合性、市場性などについては、本書に関する一切の保証をいたしかねます。本書の記載内容の誤り、および提供、パフォーマンス、本書の使用に関連して発生する直接損害、間接損害、特別損害、偶発的損害、または派生損害について、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

当社製品に適用される特定の保証書は最寄りの当社営業所から提供しております。

権利の制限

合衆国政府が使用、複製、または開示を行う場合、国防総省については DFARS 252.227-7013 の "Rights in Technical Data and Computer Software" の (c) (1) (ii) に記載されている制限が適用されます。

Hewlett-Packard Company
United States of America

その他の機関については FAR 52.227-19 の (c) (1) および (c) (2) に記載されている制限が適用されます。

著作権

© Copyright 2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

当社の書面による承諾なく、本書の内容のコピー、複製、別の言語への翻訳を行うことは禁じられています。本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

商標

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Adobe® および Acrobat® は Adobe Systems Incorporated. の商標です。

Windows® および MS Windows ® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Microsoft® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

その他の製品名は各社の商標またはサービス マークです。

サポートについて

HP OpenView のサポート専用 Web サイトを参照してください。

<http://www.hp.com/managementsoftware/support>

ここでは、HP OpenView の製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ情報が掲載されています。

HP OpenView ソフトウェア サポート オンラインでは、セルフソルブ技術情報検索を利用でき、お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。ここでは、次の処理を実行できます。

- 技術情報の検索
- エンハンスメント要求の送信
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポートケースの登録とトラッキング
- サポート契約の管理
- HP サポート連絡先の検索
- 利用可能なサービスの参照
- ユーザー同士のディスカッション
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

ほとんどのサポート エリアについて、アクセスするには、HP Passport ユーザーとして登録、ログインする必要があります。また、多くのサポート エリアでサポート契約が必要です。

アクセスレベルに関する詳細は以下を参照してください。

http://www.hp.com/managementsoftware/access_level

HP Passport ID の登録は以下で行うことができます。

<http://www.managementsoftware.hp.com/passport-registration.html>

目次

1 OV Performance Agent のインストール	7
はじめに.....	7
インストール要件.....	9
ハードウェア.....	9
対応しているアーキテクチャおよびオペレーティング システム.....	10
通信プロトコル.....	11
ディスク スペース.....	11
ネットワークに関する考慮点.....	13
インストールの手順.....	14
OV Performance Agent の終了.....	14
OV Performance Agent のインストール.....	14
手動インストール.....	15
自動インストール.....	16
インストール結果.....	16
ディレクトリ構造.....	17
OV Operations を使用する OV Performance Agent のインストール.....	17
OV Performance Agent の削除.....	18
手動アンインストール.....	18
自動アンインストール.....	18
すべての OV Performance Agent ファイルの削除.....	19
アンインストールの結果.....	19
ドキュメントの表示と印刷.....	20
Web 上でのドキュメントの参照.....	21
Adobe Acrobat ファイル.....	22
2 OV Performance Agent の実行方法	23
はじめに.....	23
セキュリティに関する制限.....	25

OV Performance Agent サービスの開始と終了.....	26
Windows GUI からの開始と終了.....	26
コマンド プロンプトからの開始と終了.....	26
OV Performance Agent サービスの状態の確認.....	27
システム再起動時の自動開始.....	27
OV Performance Agent の再開始.....	27
OV Performance Agent サービスのリフレッシュ.....	27
OV Performance Agent 用の通信モードの設定.....	29
ステータスの確認方法.....	29
ディレクトリのサンプル.....	30
ファイアウォールを介した通信.....	31
HTTP 環境での通信.....	32
ファイアウォールを介したポートの設定.....	33
RPC 環境での通信.....	37
ファイアウォールの設定に関する表.....	38
安全な通信の設定.....	40
証明書の使用.....	40
クライアント認証の使用.....	40
authip ファイルによる認証の有効化.....	41
データ ソースの設定.....	44
OV Performance Manager 3.x および OV Reporter のデータ ソースの設定.....	44
設定オプション.....	45
データ収集のカスタマイズ.....	46
アラームの定義.....	47
コマンド プロンプトからの OV Performance Agent サービスの制御.....	47
バックアップに関する考慮点.....	48
自動バックアップ.....	49
索引	51

第 1 章 OV Performance Agent のインストール

はじめに

HP OV Performance Agent ソフトウェアは、Microsoft Windows を実行しているシステムからパフォーマンス、リソース、およびトランザクション データを取り込みます (Windows プラットフォームのサポート に関する詳細は、10 ページの「対応しているアーキテクチャおよびオペレーティング システム」を参照してください)。また、最小限のシステムリソースを使用して、システム上の現在および過去のデータに関するアラーム状態の連続的な収集、記録、要約、タイムスタンプ作成、および検出を行います。アプリケーション応答測定 (ARM: Application Response Measurement) API 標準を使用して、OV Performance Agent が、ARM が装備されたビジネス アプリケーションのエンドツーエンドの応答時間を記録します。



本書で使用する用語が表す内容は以下のとおりです。

- OV Performance Agent または OVPA for Windows は、Windows 対応の MeasureWare Agent (MWA) を指します。
- OV Performance Manager (OVPM) は、バージョン 4.0 以降のみを指します。OVPM 3.x という名称は、以前 PerfView と呼ばれていた製品を指します。
- OV Operations という用語は、IT/Operations を指します。

ただし、操作に関するプロセス名およびソフトウェア コンポーネントについては、MeasureWare Agent (MWA) という名前が使用されています。

OV Performance Agent には、拡張収集ビルダ (Extended Collection Builder) およびマネージャが含まれており、Windows レジストリ パフォーマンス カウンタへのアクセスが可能です。拡張収集ビルダおよびマネージャを使用することで、Windows レジストリを介して利用可能なデータが収集 / 記録されます。

収集したデータは、表計算ソフトや、OV Performance Manager などの当社の分析ソフト、他社の分析ソフトを使用して解析できます。さらに、OV Performance Agent は HP OpenView Performance Manager、HP OpenView Network Node Manager、および HP OpenView Operations にデータ アクセスを提供します。

OV Performance Agent は、データ ソース統合 (DSI: Data Source Integration) 技術を使用して、アプリケーション、データベース、ネットワーク、その他のオペレーティング システムなどの外部データ ソースからデータを受信し、アラーム状態を検出し、ログを記録します。OV Performance Agent が記録し、保存したデータを使用して、次のことが可能になります。

- 環境の作業負荷の特徴づけ
- リソースの使用量と負荷バランスの分析
- 過去のデータの傾向分析とボトルネックの分離および特定
- トランザクション応答時間に基づいたサービス レベルの管理
- 容量計画の促進
- アラーム状態への応答
- システム管理問題の事前の解決



システムにこのソフトウェアがあらかじめインストールされている場合は、第 2 章「OV Performance Agent の実行方法」に進んでください。

インストール要件

OV Performance Agent をインストールする前に、システムがこの項に記されている要件を満たしていることを確認してください。OV Performance Agent がシステム上で正しく動作するためには、システムや構成に関して次の前提条件が必要です。

ハードウェア

OV Performance Agent は、以下の要件のいずれかを満たす Microsoft Windows システムで実行されます。

- Intel Pentium プロセッサ、または同等のプロセッサ
- Intel Itanium2
- AMD Opteron
- Intel EM64T に対応した Pentium プロセッサ
- Intel EM64T に対応した Xeon プロセッサ

対応しているアーキテクチャおよびオペレーティング システム

表 1 対応しているアーキテクチャおよびオペレーティング システムのバージョン

アーキテクチャ	オペレーティング システム	プロトコル
X86	<ul style="list-style-type: none">Windows 2003 Standard Edition、Windows 2003 Enterprise Edition、Windows 2003 Datacenter Edition、Windows 2003 Web EditionWindows 2000 Datacenter Server、Windows 2000 Professional Server、Windows 2000 Advanced Server (Service Pack 4 またはそれ以降)Windows XP Standard (Service Pack 1)	HTTP(S)、RPC
X86_64、AMD 64、EM64T	<ul style="list-style-type: none">Windows 2003 Server x64 EditionsWindows XP Professional x64 Edition	RPC
IPF	Windows 2003 Server for Itanium-based Systems	RPC

OV Performance Agent に関するネットワーク ソフトウェアの要件についての情報は、この章の最後の「ネットワークに関する考慮点」を参照してください。

通信プロトコル

OV Performance Agent は、以下の通信プロトコルをサポートしています。

- HTTP(S) 1.1
- RPC

ディスク スペース

OV Performance Agent はプログラム ファイル、コントロール パネル アプレット、データ ファイル、ログ ファイル、および一時ファイルにディスク スペースを使用します。

- ▶ OV Performance Agent アプリケーション用には、指定したドライブに 50 MB 以上の空き容量が必要です。OV Performance Agent アプリケーション ログ ファイル用には、指定したドライブに 60 MB 以上の空き容量が必要です。
 - プログラム ファイル - OV Performance Agent では、インストールディレクトリに保存されているプログラム ファイルのインストール用に、約 10 MB のディスク容量が必要です。インストール中に、さらに追加の容量が必要になる場合があります (後述の「一時ファイル」参照)。
 - コントロール パネル アプレット - OV Performance のサービス プログラムおよび各種の DLL 用に、<\$windir\$>\system32 ディレクトリに 2.5 MB のディスク容量が必要です。
- ▶ InstallDir は、OV Performance Agent をインストールするディレクトリです。OV Performance Agent に関連するすべてのバイナリおよび共有ライブラリは、それぞれ <InstallDir>\bin および <InstallDir>\lib に格納されています。InstallDir へのデフォルトのパスは、<drive>:\Program Files\HP OpenView\ です。DataDir はデータ ファイルを保存するデフォルトのディレクトリです。DataDir へのデフォルトのパスは、<drive>:\Program Files\HP OpenView\data です。
- ▶ すでに HP OpenView 製品がインストールされている場合、OVPA は同じディレクトリにインストールされます。

- 設定ファイル、ステータスファイル、ログファイル - デフォルトでは、設定ファイル、ステータスファイル、およびログファイルはプログラムファイルとは個別に保存されます。ステータスファイルおよび設定ファイルは、<DataDir> ディレクトリに保存され、インストールには約 1 MB のディスク容量を必要とします。ステータスファイルにはデータが蓄積するため、このファイルのサイズは 10 MB まで増加します。

ログファイルは、<DataDir>\datafiles ディレクトリに保存されます。ログファイルに使用されるディスク容量は、システム負荷および収集するパフォーマンスデータの総量によって、大きく異なります。デフォルトの設定を使用すると、2 ヶ月から 6 ヶ月のうちにログファイルが最大の 60 MB に達することが予想されます。ただし、トランザクションを追跡しない場合は、最大サイズは 50 MB です。OV Performance Agent ログファイル用のデータ記憶領域の制限および設定方法については、『OV Performance Agent for Windows ユーザー マニュアル』の第 3 章を参照してください。

- アーカイブされたログファイル - OV Performance Agent のログファイルが最大サイズに達すると、最も古いデータが自動的にロールアウトされ、さらなるデータの保管領域が確保されます。OV Performance Agent の自動ロールアクション、および効果的なデータ収集管理方法についての詳細は、『OV Performance Agent for Windows ユーザー マニュアル』の第 2 章を参照してください。
- 一時ファイル - OV Performance Agent のインストールプログラムは、<\$TEMP\$> ディレクトリに、約 10 MB の一時ファイルのための記憶領域を使用します。インストールが完了すると、この領域は解放されます。OV Performance Agent は、スキャン、分析、およびステータスの各操作に関する一時ファイルを保存するため、通常の動作中にも <\$TEMP\$> ディレクトリを使用します。必要な空きディスク容量の正確なサイズは、同時に開くレポートの数およびサイズにより異なります。

ネットワークに関する考慮点

TCP/IP ネットワーク プロトコルをインストールし、実行していないと、OV Performance Agent をインストールすることができません。この点について確認するには、Windows コントロール パネルの [管理ツール] の [サービス] で TCP/IP を検索します。



DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) が有効になっていると、OV Performance Manager でのデータ表示およびアラームの受信に問題が発生することがあります。OV Performance Manager 3.x は IP アドレスを介してシステムを検出するため、IP アドレスが元の設定と異なるシステムは、OV Performance Manager 3.x では検出されません。

DNS (Domain Name System) ネーム サーバーを使用していない場合は、OV Performance Agent がインストールされている各システムに HOSTS ファイルが必要になります。HOSTS ファイルは、ホスト名を IP アドレスにマッピングするテキスト ファイルで、ローカルに保存されます。HOSTS ファイルは `<$windir$>\system32\drivers\etc` ディレクトリに保存し、UNIX システムにおける `/etc/hosts` ファイルと同じ形式にする必要があります。HOSTS ファイルには、接続する予定の OV Performance Manager および OV Operations システムの名前と共に、OV Performance Agent システムの名前が含まれるようにします。

インストールの手順

OV Performance Agent は、CD-ROM インストール メディア内の数個のファイルセットから構成されています。ソフトウェアのサイズは約 30 MB です。

以下の手順に従って、OV Performance Agent をインストールします。

- 1 OVPA をすでにシステムにインストールしている場合は、最初に実行中のパフォーマンス ツールとプロセスをすべて終了します。次の「[OV Performance Agent の終了](#)」を参照してください。
- 2 OV Performance Agent をインストールします。

OV Performance Agent の終了

OV Performance Agent は Windows コマンド プロンプト、または次のような `mwacmd` (`mwacmd.exe`) コマンドを使用するバッチ ファイルから終了することができます。

```
mwacmd stop または mwacmd stop all
```

すべての OVPA サービスをコマンド プロンプトから終了します。



`ttd` を終了する場合は、ARM 装備のアプリケーションを**終了してから** `ttd` と OV Performance Agent のプロセスを再開してください。

OV Performance Agent のインストール

Administrator または Administrators グループのメンバーであるユーザーとして、Windows システムにログオンします。次の 2 つのモードのいずれかを使用して、OV Performance Agent をインストールできます。

- 手動インストール
- 自動インストール

手動インストール

以下のインストール手順に従って、OV Performance Agent をインストールします。この手順は、数分で終了します。

- 1 すでにインストールしている OV Performance Agent をこのバージョンに更新する場合は、すべての OV Performance Agent ウィンドウとプログラム、および他に使用しているアプリケーション ウィンドウ (Windows コントロールパネルを含む) を終了します。
- 2 CD-ROM ドライブに OV Performance Agent CD を挿入します。OV Performance Agent インストール ウィンドウが開きます。
- 3 表示される手順に従います。



- ネットワーク ドライブ上に OV Performance Agent をインストールすることはできません。OV Performance Agent は、ネットワーク ドライブが接続される前に、起動時間に開始されます。
- システムのディスク パフォーマンス カウンタが停止している場合、このカウンタが実行されなければディスク メトリックが収集されないというメッセージが表示されます。**diskperf -y** コマンドで、論理ディスクおよび物理ディスクのパフォーマンス カウンタを実行してください。ディスク パフォーマンス カウンタの実行は、システムのリポート後に有効になります。
- システムを再起動したときに、自動で OV Performance Agent を開始しない場合は、第 2 章、「[OV Performance Agent の実行方法](#)」に記述されている手順で、OV Performance Agent を手動で開始する必要があります。
- ARM 技術を使用するアプリケーションをシステムで実行している場合は、システムは再開時のメッセージを表示します。
- リモート プロシージャ コール (RPC) サービスが開始されていない場合、OV Performance Agent 設定プログラムがサービスを開始し、システムの再起動時に自動で開始するように設定します。

OV Performance Agent のアップデートについては、『OV Performance Agent リリースノート』を参照してください。『OV Performance Agent リリースノート』には、ドキュメント一覧には含まれていない情報が記載されています。

自動インストール

自動インストールを実行するには、Windows コマンド プロンプトのコマンド ライン オプションで、`setup.exe /s` コマンドを実行します。

以下の手順で、自動インストールを開始します。

- 1 Windows コマンド プロンプトを開き、次のように入力して、OV Performance Agent の `setup.exe` ファイルが置かれているドライブに移動します。

<drive>:

ここでの、<drive> は OV Performance Agent ファイルが含まれている CD-ROM のドライブです。

- 2 コマンドの構文と利用可能なオプションは以下のとおりです。

自動インストールを有効にするには、次のように入力します。

```
setup.exe /s[/z"-p1 <Install directory path> -p2 <Data directory path> -s -v "]
```

ここで使用できるオプションの説明を以下に示します。

- `-p1`: インストール ディレクトリ パスの入力指定のために使用します (デフォルトのディレクトリ パスは `SystemDrive\Program Files\HP OpenView` です)。
- `-p2`: データ ディレクトリ パスの入力指定のために使用します (デフォルトのディレクトリ パスは `SystemDrive\Program Files\HP OpenView\data` です)。
- `-s`: インストール後、OVPA サービスを直ちに開始する場合に使用します。
- `-v`: OVPA サービスの開始方法を、「自動 (Automatic)」ではなく「手動 (Manual)」に設定する場合に使用します。
- `/s`: 自動モードでインストールを実行する場合に使用します。
- `/z`: インストール プログラムに入力を指定する場合に使用します。入力は「"」内に指定します。

インストール結果

OV Performance Agent ファイルがデフォルトまたは指定した場所にインストールされると、設定プログラムは次の処理を実行します。

- OV Performance Agent サービスを制御するための OV Performance コントロールパネル アプレットがインストールされます。OV Performance Agent サービスについての説明は、第 2 章、「OV Performance Agent の実行方法」を参照してください。
- Windows では、[HP OpenView] フォルダが [スタート] > [プログラム] メニューに追加されます。このフォルダのサブメニューには、OV Performance Agent プログラム用のアイコンやコマンド、オンライン ヘルプ、およびリリース ノートが含まれています。
- システム パス変数が変更され、<InstallDir>\bin\ が含まれます。

ディレクトリ構造

アップグレード インストールの場合、ファイルは以前にインストールされたバージョンと同じディレクトリに自動的に配置されます。

デフォルトのファイルの配置は以下のとおりです。

- プログラムおよび他のファイルは、<InstallDir>\bin\ ディレクトリのサブディレクトリに保存されます。
- データ ファイル (ログ ファイルおよびデータを含む他のファイル) は、DataDir\ ディレクトリのサブディレクトリに保存されます。

環境変数 *windir* は、システムの Windows ディレクトリを指示するために使用します。環境変数 *TEMP* は、Windows システムで一時的にファイルが保存されるディレクトリを指示するために使用します。



ストライプ処理されたディスク - このオプションでは、ストライプ処理されたディスク セットの物理ドライブに対して、ディスク パフォーマンス カウンタを使用できません。ストライプ処理されたディスクのデータを収集する場合は、Windows コマンド プロンプトから `diskperf -yE` を実行します。

OV Operations を使用する OV Performance Agent のインストール

HP OpenView Operations for UNIX 8.x を使用している場合、管理サーバーから Windows ノードに、HP OpenView Performance Agent をインストールすることができます。

HP OpenView Operations for UNIX 8.x 管理サーバーからのインストール方法の詳細は、『HP OpenView Operations for UNIX システム管理リファレンス ガイド』の「HP OpenView Performance Agent」の章を参照してください。

OV Performance Agent の削除

Administrator または Administrators グループのメンバーであるユーザーとして、Windows システムにログオンします。次の 2 つのモードのいずれかを使用して、OV Performance Agent をシステムからアンインストールできます。

- 手動アンインストール
- 自動アンインストール

手動アンインストール

以下の手順で、アンインストールプログラムを使用した OV Performance Agent のアンインストールを実行することができます。

- 1 Administrator または 管理者権限のあるユーザーで、Windows システムにログオンします。
- 2 OV Performance Agent プログラム、OV Performance Services ウィンドウ、および Windows コントロール パネルを終了します。
- 3 [**コントロール パネル**] > [**プログラムの追加と削除**] を開きます。
- 4 [**HP OpenView Performance Agent**] を選択します。
- 5 [**変更と削除**] をクリックしてアンインストールを実行します。

自動アンインストール

自動アンインストールを実行するには、Windows コマンド プロンプトのコマンドライン オプションで、`setup.exe /s /x` コマンドを実行します。

コマンド プロンプトからアンインストールを行うには、以下のように入力します。

```
setup.exe /s /x [/z"-r all"]
```

ここで使用できるオプションは以下のとおりです。

- `-r`: OVPA で作成されたログ ファイルの保持を指定します。
- `-r all`: OVPA で作成されたログ ファイルの削除を指定します。

- /s: 自動モードでアンインストールを実行する場合に使用します。
- /x: アンインストールを実行するために使用します。
- /z: インストールプログラムに入力を指定するために使用します。入力は「"」内に指定します。

すべての OV Performance Agent ファイルの削除

デフォルトでは、アンインストールプログラムによって、OV Performance Agent の設定ファイル、ステータス ファイル、およびログ ファイルは削除されません。また、<InstallDir>\bin\ もシステム パス変数から削除されません。これらをシステムから消去する場合は、手動で削除することができます。システムに RPM ツール アプリケーション (OV Performance Manager / Reporter など) がインストールされている場合は、追加ファイルの削除や、パス変数の変更を行わないでください。

OV Performance Agent が手動のアンインストールの際に最後に削除される RPM ツール アプリケーションである場合、<InstallDir>\bin\ および DataDir\ ディレクトリ内のすべてのファイルを消去するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

-r all オプションを使用することにより、自動インストール中に、<InstallDir>\bin\ ディレクトリ内のすべてのファイルを削除することができます。



アンインストール後、OV Performance Agent アンインストール プログラムにより、一部の項目が削除できなかったことを通知するメッセージが表示されることがあります。アンインストール プログラムは、これらのファイルに次のシステム再起動時に削除を行うことを示すマークを付けます。このメッセージが表示された場合は、OV Performance Agent を再インストールする前に、システムを再起動します。

アンインストールの結果

アンインストール プログラムは perfstat.exe 以外の OV Performance Agent プログラム ファイルを削除します。ただし、OV Performance Agent がシステムにインストールされた唯一の RPM ツールである場合は、perfstat.exe も削除されます。アンインストール プログラムは、OV Performance Agent に関連した OV Performance サービスおよび Windows レジストリ エントリも削除します。

ドキュメントの表示と印刷

OV Performance Agent ソフトウェアには、表示可能なフォーマットによる標準の OV Performance Agent ドキュメント一式が含まれています。Adobe Acrobat フォーマット (*.pdf) のドキュメントはオンラインで表示され、必要な場合は印刷できます。ASCII テキスト (*.txt) のドキュメントは印刷が可能です。ただし、テキスト エディタを使用すると、画面上でテキスト ファイルを表示できます。次の表で、ドキュメント、使用されているファイル名、およびオンラインのパスを示します。

表 2 OV Performance Agent ドキュメント一覧

ドキュメント	ファイル名	Windows でのパス
HP OpenView Performance Agent for Windows インストール、構成ガイド	ovpainst.pdf	<i>InstallDir</i> \paperdocs\ovpa\C
HP OpenView Performance Agent for Windows ユーザー マニュアル	ovpausers.pdf	<i>InstallDir</i> \paperdocs\ovpa\C
HP OpenView Performance Agent for Windows データ ソース統合ガイド	ovpads.pdf	<i>InstallDir</i> \paperdocs\ovpa\C
HP OpenView Performance Agent for Windows トランザクション追跡	tytnt.pdf	<i>InstallDir</i> \paperdocs\ovpa\C
アプリケーション応答測定 API ガイド	arm2api.pdf	<i>InstallDir</i> \paperdocs\arm\C
HP OpenView Performance Agent for Windows Dictionary of Operating System of Performance Metrics	ovpa-metrics.pdf ovpa-metrics.txt	<i>InstallDir</i> \paperdocs\ovpa\C
HP OpenView Performance Agent Windows Metric Definitions	metnt.pdf	<i>InstallDir</i> \paperdocs\ovpa\C

OV Performance Agent for Windows の実行に関する情報は、第 2 章、「OV Performance Agent の実行方法」を参照してください。

リリース ノート

OV Performance Agent のマニュアルおよびオンライン ヘルプに記載されていない追加情報については、『OV Performance Agent リリース ノート』を参照してください。新機能と共に、従来の問題および現在認識されている問題の修正に関する説明や、これらの問題の対処方法が記載されています。インストールの最後に、このリリース ノートを参照することができます。また、インストール後は、[スタート] -> [プログラム] メニューの [HP OpenView] フォルダから参照できます。

オンライン ヘルプ

HP OpenView プログラム フォルダまたは OV Performance Agent のメイン ウィンドウから、OV Performance Agent オンライン ヘルプにアクセスし、参照してください。同じ場所から、メトリックに関するオンライン ヘルプも利用できます。

Web 上でのドキュメントの参照

ここにリストしているドキュメントは、以下の HP OpenView マニュアルの Web サイトでも参照できます。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv

製品リスト ボックスから「OV Performance Agent」バージョン (OS が自動的に選択されます) の順に選択し、ドキュメントを指定した後、[Open] をクリックして表示します。[Download] をクリックして、コンピュータにファイルを保存することもできます。

Adobe Acrobat ファイル

Adobe Acrobat ファイルは、Acrobat 7.0 で作成されました。表示する場合は、Adobe Acrobat Reader バージョン 4.0 以降を使用してください。システムに Acrobat Reader がインストールされていない場合は、Adobe の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.adobe.com>

Acrobat Reader でドキュメントを表示している間は、1 ページ、複数ページ、または全ページ分のドキュメントを印刷できます。

第 2 章 OV Performance Agent の 実行方法

はじめに

この章では、OV Performance Agent を Windows システムにインストールした後のプログラムの開始と実行に関する作業について説明します。

次のような内容を取り上げます。

- OV Performance Agent サービスの開始と終了
- OV Performance Agent 用の通信モードの設定
- ファイアウォールを介した通信
- 安全な通信の設定
- データソースの設定
- 設定オプション
- アラームの定義
- バックアップに関する考慮点

▶ データソース統合 (DSI: Data Source Integration) 機能を使用して、他のソースのデータを記録する場合は、『HP OpenView Performance Agent for Windows データソース統合ガイド』を参照してください。

OV Performance Agent は 32 ビット Windows システムでの RPC モードに適合する HTTP データ通信メカニズムに対応しています。OV Performance Agent の初回インストール時には、デフォルトのデータ通信モードは HTTP です。

▶ 64 ビット Windows システムでは、RPC データ通信メカニズムのみがサポートされています。

OV Performance Agent 8.x にアップグレードする場合は、以前に使用していた RPC データ通信モードが、用いられます。データ通信モードを新しい HTTP モードに移行するには、インストールの後に設定を変更する必要があります。詳細は、「[HTTP 環境での通信](#)」を参照してください。OV Performance Agent は、HP OpenView Operations 環境でのみ、安全性の高い HTTPS データ通信に対応しています。

セキュリティに関する制限

以下のセキュリティ関連の制限事項は、OV Performance Agent サービスの制御に適用されます。

- OV Performance Agent サービスを開始または終了するには、Administrators グループまたは Power Users グループのメンバーである必要があります。
- OV Performance Agent 設定ファイルをリフレッシュするには、Administrators グループまたは Power Users グループのメンバーである必要があります。
- OV Performance Agent サービスを設定するには、Administrators グループのメンバーである必要があります。

すべてのユーザーは、Windows コントロールパネルの [サービス] プログラムから、または Windows コントロールパネルの [管理ツール] 内の [サービス] プログラムから、OV Performance Agent サービスの状態を確認することができます。

OV Performance Agent サービスの開始と終了

インストールが完了したら、OV Performance Agent を開始できます。OV Performance Agent は Windows の GUI またはコマンド プロンプトから開始できます。

Windows GUI からの開始と終了

Windows の GUI から OV Performance Agent を開始するには、以下の手順に従います。

- 1 **OV Performance Agent** を開くには、[**スタート**] > [**プログラム**] > [**OV Performance Agent**] の順にクリックします。または、

OV Performance Agent のメイン ウィンドウから、[**Start/Stop**] をクリックします。または、Windows コントロール パネルから、[**OVPA**] をダブルクリックして、[**OV Performance Agent Start/Stop**] ダイアログ ボックスを開きます。

- 2 すべての OVPA サービスを開始するには、[**Start Services**] をクリックします。
- 3 すべての OVPA サービスを終了するには、[**Stop Services**] をクリックします。

コマンド プロンプトからの開始と終了

Windows のコマンド プロンプトから、または以下のような `ovpacmd` (`ovpacmd.exe`) コマンドを使用するバッチ ファイルから、OV Performance Agent サービスを開始および終了することができます。

- `ovpacmd start` または `ovpacmd start all`

すべての OVPA サービスをコマンド プロンプトから開始します。

- `ovpacmd stop` または `ovpacmd stop all`

すべての OVPA サービスをコマンド プロンプトから終了します。



後方互換性を確保するために、今回のリリースでも実行ファイル `mwacmd.exe` が提供されています。このファイルの機能は、`ovpacmd.exe` と同じです。

OV Performance Agent サービスの状態の確認

OV Performance Agent サービスの状態を確認するには、以下の手順に従います。

- **[OV Performance Agent]** > **[Status]** を選択します。または、
- メイン ウィンドウの **[Agent Status]** アイコンをクリックします。または、コマンド プロンプトから以下のコマンドを実行して、OV Performance Agent サービスの状態を確認します。

```
perfstat
```

システム再起動時の自動開始

システムの再起動時に OV Performance Agent サービスを自動で開始するインストール オプションを選択しなかった場合は、以下の手順で自動開始を有効にします。

- 1 **[コントロール パネル]** の **[管理ツール]** で、**[サービス]** を選択します。
- 2 **[OVPA Collector]** を選択して、**[スタートアップ]** をクリックし、**[スタートアップの種類]** に **[自動]** を選択します。
- 3 **OVPA Agent**、**OVPA Transaction Manager**、**OVPA Extended Collector**、および **OVPA DSI Service** に対して、手順 2 を繰り返します。

OVPA Measurement Interface には、自動開始を設定しないでください。

OV Performance Agent の再開

OV Performance Agent を再開するには、「[OV Performance Agent サービスの開始と終了](#)」に記載されている手順のいずれかに従って、OVPA を終了し、開始します。

OV Performance Agent サービスのリフレッシュ

OV Performance Agent 設定ファイル (parm.mwc、tttdconf.mwc、alarmdef.mwc、dsiconf.mwc) を編集する場合、対応するサービスをリフレッシュして、設定ファイルに加えた変更を反映させる必要があります。**[Refresh]** ボタンを有効にするには、**[OV Performance Agent Services]** ダイアログ ボックスから少なくとも 1 つの **[Configuration Parameter]** を選択します。

Windows GUI からのリフレッシュ

- 1 OV Performance Agent のメイン ウィンドウの [Agent] メニューから、**[Start/Stop]** をクリックします。または、Windows コントロールパネルから、**[OVPA]** をダブルクリックして、**[OV Performance Agent Start/Stop]** ダイアログ ボックスを開きます。
- 2 変更を加えた設定パラメータを選択します。
- 3 **[Refresh]** ボタンをクリックします。**[Refresh]** ボタンを有効にするには、**[OV Performance Agent Services]** ダイアログ ボックスから少なくとも 1 つの **[Configuration Parameter]** を選択します。

コマンド プロンプトからのリフレッシュ

Windows コマンド プロンプトを開き、次のように入力します。

```
ovpacmd refresh <config>
```

ここで <config> には、以下の内容が入ります。

- parm.mwc に対しては、COL
- ttdconf.mwc に対しては、TRAN
- alarmdef.mwc に対しては、ALARM
- dsiconf.mwc に対しては、DSI

異なるデータ通信モードで開始されるサービス

RPC

HP OpenView Ctrl Service

OVPA Collector

OVPA Alarm Generator

OVPA DSI Service

OVPA Extend Collector

OVPA Measurement Interface

OVPA Transaction Manager

OVPA Agent (perfalarm が存在しない場合のみ alarmgen を開始します。)

HTTP

HP OpenView Ctrl Service

OVPA Collector

OVPA Alarm Generator

OVPA DSI Service

OVPA Extend Collector

OVPA Measurement Interface

OVPA Transaction Manager

OV Performance Agent 用の通信モードの設定

OV Performance Agent は、HTTP および RPC 両方の通信モードに対応しています。現在のモードを表示するには、「Ovpacmd getdatacomm」と入力します。

通信モードを RPC または HTTP に変更するには、以下の手順に従います。

- 1 OVPA を終了します。
- 2 `ovpacmd setdatacomm <mode>` を実行します。ここで、<mode> には以下のいずれかが入ります。
 - HTTP - HTTP 通信モード
 - RPC - RPC 通信モード
- 3 OVPA を開始します。

ステータスの確認方法

OV Performance Agent を開始すると、DataDir ディレクトリに数個のステータスファイルが作成されます。

perfstat コマンドを使用して、OV Performance Agent の全プロセスまたは一部のプロセスのステータスを確認できます。

次のステータス ファイルには、ファイルを生成するプロセスで生じる障害を解決するのに使用される診断情報が含まれます。

```
<DataDir>\status.alarmgen  
<DataDir>\status.perflbd  
<DataDir>\status.rep_server  
<DataDir>\status.scope  
<DataDir>\status.perfalarm  
<DataDir>\status.ttd  
<DataDir>\status.mi  
<DataDir>\log\coda.txt
```



OV Performance Agent プロセスがメッセージをステータス ファイルに書き込むたびに、ファイルが 1 MB を超えるサイズであるかどうかを確認されます。1 MB を超えるファイルの場合は、ファイル名が `status.filename.old` に変更され、新しいステータス ファイルが作成されます。

ディレクトリのサンプル

InstallDir\examples\ ディレクトリには、設定ファイルと構文ファイルの例、および当社のパフォーマンス ツールをカスタマイズするために使用できるプログラム ファイルのサンプルが含まれています。たとえば、InstallDir\example\config\ サブディレクトリには、サンプルのアラーム定義と parm ファイルのアプリケーション指定パラメータの例が含まれています。詳細については、InstallDir\examples\README ファイルを参照してください。

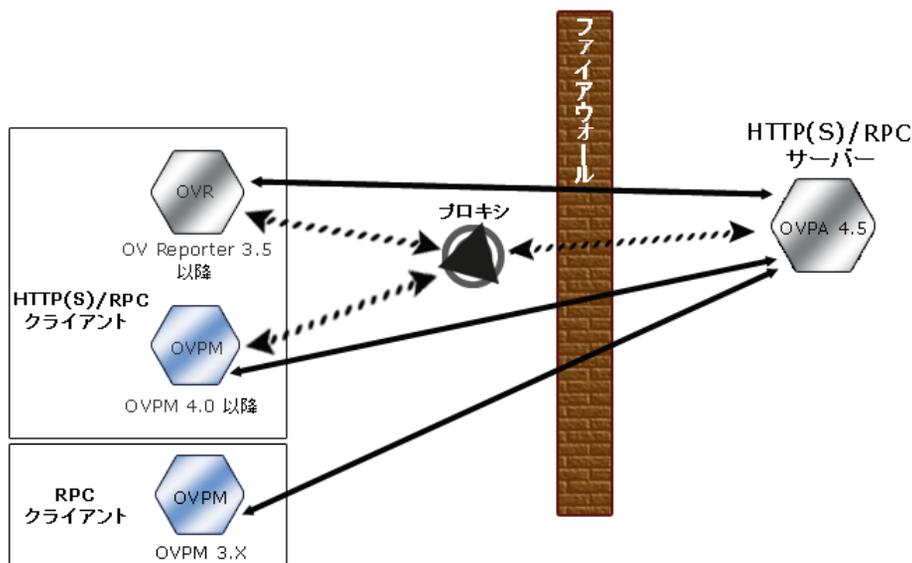
ファイアウォールを介した通信

一般に、ファイアウォールは2つのネットワーク間のデータの流れをフィルタリングする方法として定義することができます。OV Performance Agent (OVPA) では、クライアントとサーバー アプリケーション間のデータ アクセスに関して、以前からパケットフィルタリング ネットワーク ファイアウォールを介した通信メカニズムに対応していましたが、今回さらに、HTTP 1.1 ベースの通信インターフェイスに対応しました。HTTP ベースのインターフェイスはプロキシが使用できるため、柔軟で、ポート数が少なくすみ、ファイアウォールに適しています。

▶ OV Performance Agent は、HP OpenView Operations 環境でのみ、証明書ベースの安全な (HTTPS) データ通信に対応しています。詳細は、40 ページの「[証明書の使用](#)」を参照してください。

2つのシステム間にネットワーク ファイアウォールがある場合は、OV Performance Manager および OV Reporter により OV Performance Agent システムからデータを取得することができます。

図 1 ファイアウォール環境での OVPA との通信



▶ 本書で使用される OV Performance Manager 3.x という名称は、PerfView 製品を指しています。

HTTP 環境での通信

ファイアウォール環境で HTTP 通信を設定するには、さまざまな方法があります。HTTP プロキシを使用して、ファイアウォールを介した OVPA データ通信を行うことをお勧めします。この方法では、環境内ですでに使用されているプロキシを用いることにより、設定が簡略化されます。プロキシが双方向で使用されている場合、ファイアウォールでは厳密に 1 つのポートを開く必要があります。

典型的なリモート通信では、ソースポートを使用しているクライアントが、リモートシステムの宛先ポートをリッスンしているサーバーに接続します。ファイアウォールを設定するためには、通信を開始するシステム (クライアント) および通信リクエストを受信するシステム (サーバー) を把握し、それに応じてファイアウォールのルールを設定することが重要です。

図 1 では、OVPA がファイアウォールを介して Reporter (バージョン 3.5 以降) および OV Performance Manager (OVPM バージョン 4.0 以降) と通信する方法を示しています。OVPA は HTTP または HTTPS サーバーです。Reporter および OVPM 4.x は HTTP クライアントです。OVPM 5.0 は HTTP または HTTPS クライアントに設定することができます。HTTP プロキシを使用する場合、Reporter および OVPM はプロキシを経由して、OVPA と通信します。

OV Performance Manager 3.x は perfview テクノロジーを使用しています。OV Performance Manager 3.x は HTTP 通信コンポーネントを使用しませんが、Windows オペレーティングシステム用の OV Performance Agent 4.5 に接続します。

通信に使用するポート

OVPA により収集されたデータにアクセスするには、HTTP サーバー (OVPA) 用のポートと HTTP クライアント (Reporter および OVPM) 用のポートを開かれている必要があります。ファイアウォール環境で HTTP クライアントを設定する方法は 2 つあります (HTTP プロキシを使用する方法と使用しない方法)。どちらの場合にも、OVPA ノードからデータにアクセスするには、HTTP サーバー (OVPA) 側のポートを 1 つだけ開いている必要があります。

HTTP プロキシを使用する場合

ファイアウォールを介して通信する場合は、HTTP プロキシの使用をお勧めします。プロキシは頻繁に使用されており、ファイアウォールが開く必要のあるポートは、プロキシシステム用のより少ない数のポートに限られるため、設定が簡単になります。デフォルトの 383 ポートは変更しないことをお勧めします。

OVPA 用のデフォルトポート (プロキシ使用) は、33 ページの表 1 に示されています。

表 1 OVPA デフォルト ポート

ソース	宛先	プロトコル	ソース ポート	宛先ポート	説明
PROXY	MGD NODE	HTTP	プロキシに より定義	383	通信ブローカー

プロキシを設定するには、以下のコマンドを実行します。

```
ovconfchg -ns bbc.http -set PROXY proxy:port+(a)-(b)
```

変数 a および変数 b は、プロキシに適用するホスト名、ネットワーク、および IP アドレスをコンマで区切った形式のリストです。区切り記号「;」または「,」を使用して、1つの PROXY キーに対して複数のプロキシを定義することもできます。リストの前の「-」は、それらの要素では対象のプロキシが使用されないことを示し、リストの前の「+」は、それらの要素では対象のプロキシが使用されることを示します。最初に適合したプロキシが使用されます。

次に例を示します。

```
ovconfchg -ns bbc.http -set PROXY srv1.abc.com:8088+*
```

HTTP プロキシを使用しない場合

HTTP プロキシが利用できない場合、追加のソース ポートを開く必要があります。Reporter および OVPM システムで、追加の構成設定が必要です。35 ページの「[HTTP プロキシを使用しない、Reporter または OVPM の設定](#)」を参照してください。

ファイアウォールを介したポートの設定

以下のガイドラインに従い、ファイアウォール環境での OVPA との通信を設定します。

- クライアントおよびサーバーのデータ フローを含む、ファイアウォール環境を把握します。
- 環境内でのポート使用状況を確認します。
- プロキシ使用時の、ファイアウォールを介した通信設定の詳細については、以下のセクションを参照してください。

— OVPA ポートの設定

- Reporter および OVPM の設定
- その他の留意事項
- ファイアウォールを介した通信をテストします。

OVPA ポートの設定

OVPA システムではデフォルトで、BBC 通信ブローカーがポート 383 を使用し、coda は動的に割り当てられたポートを使用します。

デフォルトの通信ブローカー ポートの設定方法は次のとおりです。

OVPA システムでは、ovconfchg ツールを使用して、ポート設定を変更します。以下のコマンドを入力します。

```
ovconfchg -ns bbc.cb.ports -set SERVER_PORT <port number>
ovc -restart
```

単一ポート通信用の OVPA の設定方法は次のとおりです。

OVPA システムでは、coda は動的に割り当てられたポートを使用します。ポート設定を変更して、上記で指定した通信ブローカーのポートを使用するには、次のコマンドを入力します。

```
ovconfchg -ns coda.comm -set SERVER_BIND_ADDR localhost
ovc -restart
```

Reporter および OVPM の設定

ファイアウォール環境の HTTP クライアント (Windows または UNIX 対応の Reporter および OVPM) は、次の 2 つの方法のいずれかで設定することができます。

- HTTP プロキシを使用する方法 (推奨)。「[HTTP プロキシを使用する、Reporter または OVPM の設定](#)」を参照してください。
- HTTP プロキシを使用しない方法 (非推奨)。「[HTTP プロキシを使用しない、Reporter または OVPM の設定](#)」を参照してください。

HTTP プロキシを使用する、Reporter または OVPM の設定

OVPM 5.0 の設定は、以下の手順で行います。

次のコマンドを入力します。

```
ovconfchg -ns bbc.http -set PROXY proxy:port+(a)-(b)
```

変数 a および変数 b は、プロキシに適用するホスト名、ネットワーク、および IP アドレスをコンマで区切った形式のリストです。区切り記号「;」または「,」を使用して、1 つの PROXY キーに対して複数のプロキシを定義することもできます。リストの前の「-」は、それらの要素では対象のプロキシが使用されないことを示し、リストの前の「+」は、それらの要素では対象のプロキシが使用されることを示します。最初に適合したプロキシが使用されます。

Reporter または OVPM 4.x の設定は、以下の手順で行います。

HTTP プロキシを使用する場合は、Windows または UNIX 対応の Reporter および OVPM に対して、OVPA に接続するために使用するプロキシを指定する必要があります。Reporter または OVPM の設定は、以下の手順で行います。

default.txt 設定ファイルを編集します。

```
default.txt ファイルの [DEFAULT] セクションで、PROXY に関連する行を特定し、次のように PROXY パラメータを設定します。
```

```
PROXY web-proxy.hp.com:8088- (localhost, *.hp.com) + (*)
```

この例では、ローカルマシン (localhost) への要求、および HP 内 (たとえば、www.hp.com のような、*.hp.com に合致するもの) への要求を除いて、web-proxy プロキシが、すべてのサーバー (*) に対してポート 8088 で使用されます。

HTTP プロキシを使用しない、Reporter または OVPM の設定

ファイアウォール環境でプロキシが使用できない場合は、HTTP クライアントポートを直接指定して、ソースおよび宛先に基づくフィルタを適用することができます。

Windows 対応の Reporter および OVPM が同一のシステムにインストールされており、双方が同時に OVPA にアクセスする場合は、このセクションに記載されているポート範囲を指定します。異なるシステムで実行されている場合は、それぞれに単一のポートを指定します。

OVPM 5.0 の設定は、以下の手順で行います。

次のコマンドを入力します。

```
ovconfchg -ns bbc.http -set CLIENT_PORT <port range>
```

<port range> は、使用するポート範囲です。

次に例を示します。

```
ovconfchg -ns bbc.http -set CLIENT_PORT 14000-14003
```

Reporter または OVPM 4.x の設定は、以下の手順で行います。

default.txt ファイルを以下の手順で編集します。

- 1 CLIENT_PORT に適用される行を特定して、;CLIENT_PORT = の行をコメント解除します。
- 2 CLIENT_PORT パラメータに、ポート範囲を指定します。次に例を示します。
CLIENT_PORT = <port range>
<port range> は、使用するポート範囲です。次に例を示します。
CLIENT_PORT = 14000-14003

その他の留意事項

複数の IP アドレスを持つシステムについて

環境内に、複数のネットワーク インターフェイスおよび IP アドレスを持つシステムがあり、HTTP ベースの通信に専用のインターフェイスを使用する場合は、nodeinfo パラメータの CLIENT_BIND_ADDR および SERVER_BIND_ADDR で、使用する IP アドレスを指定することができます。

OVPA システムでは、SERVER_BIND_ADDR パラメータを指定します。

```
ovconfchg -ns bbc.http -set SERVER_BIND_ADDR <IP Address>
```

OVPM 5.0 システムでは、CLIENT_BIND_ADDR パラメータを指定します。

```
ovconfchg -ns bbc.http -set CLIENT_BIND_ADDR <IP Address>
```

Reporter または OVPM 4.x システムでは、CLIENT_BIND_ADDR パラメータを指定します。

/var/opt/OV/conf/BBC/default.txt ファイルを、以下のよう に編集します。

- 1 CLIENT_BIND_ADDR に適用される行を特定して、;CLIENT_BIND_ADDR = の行をコメント解除します。
- 2 CLIENT_BIND_ADDR パラメータに、IP アドレスを指定します。

RPC 環境での通信

OV Performance Agent は、パケットフィルタリング ネットワーク ファイアウォールを介した通信に対応しています。これにより、ネットワーク ファイアウォールが設置されているシステム間においても、OV Performance Agent から OV Performance Manager 3.x にアラームを送信することができ、また、リモートシステム上の OV Performance Agent からのデータを、OV Performance Manager 3.x でグラフ化することができます (UNIX 対応の OV Performance Manager 3.x を設定して、制限されたポート アドレスを使用するには、『HP OpenView Performance Manager インストールガイド』を参照してください)。

Windows システム上で動作しているアプリケーションで、UDP、TCP、RPC ポートを制限するには、以下の手順に従います。

regedt32 を使用して、レジストリ キーを以下の例のように作成します。この例では、2200 から 2300 を使用するポートの制限に関する設定を示しています。

新しいレジストリ キーは次のとおりです。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Rpc\Internet
```

以下の値を追加します。

種類	名前	値
REG_SZ	PortsInternetAvailable	"Y"
REG_SZ	UseInternetPorts	"Y"
REG_MULTI_SZ	Ports	2200-2300

詳細については、MSDN の記事「Configuring the Windows XP/2000/NT Registry for Port Allocations and Selective Binding」を参照してください。

現在 OV Performance Agent では、Windows で動作する UDP RPC ポートを、アプリケーションごとの規則に基づいて制限することはできません。ポートに基づくパケット フィルタリング ファイアウォールを使用している場合、ファイアウォールを介して通信するために、1023 より大きな番号のポートをすべて開く必要があります。

ポートではなく IP アドレスに基づく内部ネットワークへのアクセスを、Windows ノードに対して許可するには、以下の手順に従います。

- 1 Windows ノードをファイアウォールの外側で設定し、ファイアウォールの IP アドレスをゲートウェイとして使用します。
- 2 Windows ノードが存在するローカルまたは SUBNET のルーティング テーブルに、ファイアウォールの IP アドレスを追加します (表 2 を参照)。
- 3 ファイアウォールを設定して、Windows ノードから内部ネットワークにアクセスできるようにします。

Windows ノードが存在する SUBNET のセキュリティ ポリシー、Windows ノードのデフォルト ゲートウェイ設定、および内部ネットワークのファイアウォール設定によって、これらの手順の実行方法が異なります。環境に変更を加える前に、ファイアウォールの管理者またはネットワーク セキュリティ 担当者に相談してください。

ファイアウォールの設定に関する表

ファイアウォールに関する宛先と送信元の変数は、ファイアウォール内のアプリケーションやそのアプリケーションが実行されているオペレーティング システムにより異なります。

表 2 Windows 版 OV Performance Manager 3.x 以降 (PV)、Windows 版 OV Reporter (OVR)、Windows 版 OV Performance Agent (OVPA)

送信元	ポート番号 / プロトコル	宛先	ポート番号 / プロトコル
PV、OVR	1024-65535/UDP	MS_RPC サービス	135、1024-65535/UDP
PV、OVR	382/TCP	OVPA	382/TCP
PV、OVR	1024-65535/UDP	OVPA	1024-65535/UDP
OVPA	1024-65535/UDP	MS RPC サービス	135、1024-65535/UDP
OVPA	1024-65535/UDP	OVPM	1024-65535/UDP

表 3 UNIX 版 OV Performance Manager 3.x 以降、Windows 版 OV Performance Agent (OVPA)

送信元	ポート番号 / プロトコル	宛先	ポート番号 / プロトコル
OVPM/UNIX	OVPM_RANGE/UDP	MS RPC サービス	135、1024-65535/UDP
OVPM/UNIX	382/TCP	OVPA/WIN	382/TCP
OVPM/UNIX	OVPM_RANGE/UDP	OVPA/WIN	1024-65535/UDP
OVPA/WIN	1024-65535/UDP	DCE デーモン	135、OVPM_RANGE/UDP
OVPA/WIN	1024-65535/UDP	OVPM/UNIX	OVPM_RANGE/UDP

OVPM_RANGE は、OV Performance Manager に対して算出されたポートの範囲です。

安全な通信の設定

OV Performance Agent は証明書ベースの安全性の高い通信、およびクライアント認証ベースの通信に対応しています。

証明書の使用

OV Performance Agent は、HP OpenView Operations 8.x 環境でのみ、証明書ベースの安全なデータ通信に対応しています。

OVO で安全性の高い通信を設定するには、『HP OpenView Operations for UNIX Firewall Concepts and Configuration Guide』を参照してください。OVO 8.x HTTPS エージェントについての詳細は、『HP OpenView Operations HTTPS Agent Concepts and Configuration Guide』を参照してください。

OVO 8.x 環境ですでに HTTPS 通信を設定している場合は、OV Performance Agent と OVPM 5.0 の間の安全な通信を設定するために、以下の変更を行います。



OV Reporter および OVPM 4.x は証明書ベースの安全性の高い通信には対応していません。

OV Performance Agent システムでは、coda に関して、SSL_SECURITY に REMOTE を設定します。次のコマンドを入力します。

```
ovconfchg -ns coda -set SSL_SECURITY REMOTE
ovcodautl -config
```

クライアント認証の使用

OV Performance Agent では、オプションとして、OV Performance Manager 3.x または OV Reporter などによる、クライアント接続の認証が可能です。この認証機能を利用することで、特定の OV Performance Agent インスタンスについて、そのインスタンスへのクライアント接続を許可するホストを指定できます。

クライアント認証機能は、あらゆるバージョンの OV Performance Manager および OV Reporter クライアントからの接続を有効または無効にします。この機能を利用するにあたって、クライアントソフトウェアを更新する必要はありません。

認証プロセスは、認証されるクライアントに透過的に行われるため、クライアント接続は表面上、OV Performance Agent の過去のバージョンを使用していたときと同じように処理されます。未認証のクライアントには、サービス拒否を示す次のようなメッセージが表示されます。

```
Could not connect to OV Performance agent data source on host <hostname>.
```

authip ファイルによる認証の有効化

authip というファイルが存在する場合、認証は有効になります。HTTP ベースの通信の authip ファイルは、<DataDir>\data\conf\perf ディレクトリにあります。RPC ベースの通信の authip ファイルは、<disk drive>:\Program Files\hp OpenView\data\ ディレクトリにあります。authip ファイルにはホストのリストが含まれ、そのホストからのクライアント接続が許可されます。

- authip ファイルがデフォルトのディレクトリに存在する場合、クライアント接続が許可されるホストはこのファイルの内容によって決定されます。OV Performance Agent インスタンスとして同じホストで実行されているクライアントは自動的に認証されるため、エントリを必要としません。長さがゼロの authip ファイルは、OV Performance Agent ホストで実行されているクライアントのみが接続できることを意味します。
- authip ファイルがデフォルトのディレクトリに存在しない場合は、認証が行われず、OV Performance Agent の過去のバージョンと同様に、すべてのクライアントに接続が許可されます。

authip ファイルは、クライアントが OV Performance Agent によるサービスを要求して登録を試みるたびに照会されます。authip ファイルに変更が加えられた場合、変更内容を有効にするために OV Performance Agent を再起動する必要はありません。



ただし、認証が不適格となるように後からサーバーの authip ファイルに変更を加えた場合でも、認証が完了している既存のクライアントセッションは、OV Performance Agent による再認証を要求する操作をクライアントが行うまで、現行の接続を維持できます。authip の変更が反映されたことを確認するには、すべての OVPA サービスを終了して、再開することが必要な場合があります。その後、データソースを開き直す場合には、authip ファイルの再読み込みが行われるため、接続は拒否されます。

アラーム用の OV Performance Manager 3.x 登録では、クライアントがデータソースを削除するまで (閉じるだけでは不十分です) 承認済みクライアントはアラームを受け取り続けます。agdb ファイルに対しエントリを追加または削除するには、agsysdb ユーティリティプログラムを使用します。『HP OpenView Performance Agent for Windows ユーザー マニュアル』を参照してください。さらに、OV Performance Manager 3.x を使用して、アラームを有効または無効にすることもできます。

OV Performance Agent クライアント認証機能では、authip ファイルによりネットワーク内でのクライアント エントリが解決できるようになります。エントリの性質によっては、DNS、NIS あるいは <%windir%>\system32\drivers\etc\hosts ファイルなどによって提供されるネーム サービスが必要になる場合があります。これを検証するには、OV Performance Agent ホストから各 authip エントリへ、「ping」が成功することを確認します。クライアント認証は、authip ファイル中のクライアント エントリが OV Performance Agent ホストからの ping に応答するという、同様の条件を備えたファイアウォールで機能します。

authip ファイルのフォーマット

authip ファイルは次のフォーマットに一致する必要があります。

- 1 行あたり 1 つのクライアント ホストをリストする
- クライアント エントリには、次のフォーマットのうち 1 つ (任意) を使用する
 - 完全修飾ドメイン名
 - エイリアス (alias)
 - ドットで 4 つに区切った IPv4 の IP アドレス
- 行の始めが「#」のラインは、コメントとして無視される
- ブランクあるいは長さがゼロの行は無視される
- IP アドレスは 0 から始めない。たとえば、23.10.10.10 の IP アドレスを、023.10.10.10 と表すことはできません。
- クライアント エントリの前には、スペースまたはタブを加えることができる
- クライアント エントリの行は、スペース、タブ、新しい行、または # の記号で終わる

<%windir%>\system32\drivers\etc\hosts エントリは次のようになります。
123.456.789.1 testbox testbox.group1.thecompany.com
testbox ホストからのクライアントは、authip ファイル内の次のエントリのいずれによっても 接続可能です。

```
#===== Examples of authip file entries =====  
#  
# Use of an IP address  
123.456.789.1  
# Use of an alias  
testbox  
# Use of a fully qualified domain name  
testbox.group1.thecompany.com  
#===== End of examples of authip file entries =====
```



認証機能 (authip ファイル内のエイリアスまたはホスト名)を使用するためには、ローカル システムの DNS (Domain Name System) を適切に設定する必要があります。DNS の設定方法に関する詳細は、Microsoft Windows のオンライン ヘルプを参照してください。

データソースの設定

OV Performance Agent は、レポジトリ サーバーのセットを使用して、事前に収集したデータをアラーム ジェネレータや OV Performance Manager 分析製品に送信します。scopeux ログ ファイルや DSI ログ ファイルなどの特定のデータソースに対して、それぞれのレポジトリ サーバーがあります。各データソースには、1つのログファイルセットが含まれます。データソースは、<DataDir>\conf\perf ディレクトリ内にある datasources ファイルで設定します。インストール後、初めて OV Performance Agent を実行した場合、デフォルトのデータソースである SCOPE が事前に設定されていて、scopeux ログファイルセットが提供されています。

他のデータソース用にレポジトリサーバーを追加する場合、datasources ファイル内に設定します。OV Performance Agent の再開始時に、perflbd デーモンにより perflbd.mwc (<DataDir> ディレクトリにある、datasources ファイルへのリンク) の検索と読み込みが行われます。その後、検出された各データソースに関するレポジトリサーバーが起動されます。

OV Performance Manager 3.x および OV Reporter のデータソースの設定

OV Performance Agent のデータは、OV Performance Manager 3.x および OV Reporter で自動的に、アクセスとアラーム生成に関する設定が行われます。datasources ファイル (または、perflbd.mwc) で追加のデータソースを設定するには、『OV Performance Agent for Windows ユーザー マニュアル』の第 3 章および『OV Performance Agent for Windows データソース統合ガイド』の説明を参照してください。追加のデータソースには、生ログファイル、抽出ログファイル、OV Performance Agent のデータソース統合 (DSI: Data Source Integration) 技術で作成されたログファイル、または拡張収集ビルダおよびマネージャを使用して作成したデータ収集からのログファイルが含まれます。

IP アドレス

OV Performance Agent システムを OV Performance Manager 3.x のデータソースとして設定した後は、OV Performance Agent システムまたは OV Performance Manager 3.x システムの IP アドレスを変更しないようにします。

1 つ以上のシステムの IP アドレスを変更する必要がある場合は、問題を回避するために以下の手順に従います。

次の手順で、OV Performance Agent システムの IP アドレスを変更します。

- 1 OV Performance Manager 3.x システムで、[OV Performance Manager 3.x] ダイアログ ボックスの [Data Sources] メニューから、[Manage] を選択します。
- 2 既知のシステムのリストから、OV Performance Agent システムを削除します。
- 3 OV Performance Agent システムの IP アドレスを変更します。
- 4 OV Performance Agent システムを OV Performance Manager 3.x のデータ ソースとして再度追加します。

OV Performance Manager 3.x の IP アドレスを変更するには、OV Performance Manager 3.x のドキュメントを参照してください。

設定オプション

OV Performance Agent に含まれるデフォルトの設定ファイルを使用すると、組織内のシステムのパフォーマンスに対する監視を迅速に開始できます。デフォルトの設定を変更して、特定のコンピュータ使用環境での状況に適合させることができます。

パラメータ ファイルの収集 (parm.mwc)

デフォルトでは、OV Performance Agent は 60 MB の最大ログ ファイル サイズ (トランザクション追跡を行わない場合は 50 MB) を用いて、グローバル、プロセス、アプリケーション、トランザクション、およびディスク データを監視するように設定されます。

parm.mwc ファイルを使用して、監視するデータの種類を指定する、1 つのアプリケーションとして共に監視するプロセスのグループを設定する、ログ ファイルの最大サイズを変更するなど、各種のデータ収集パラメータをカスタマイズできます。詳細については、『OV Performance Agent for Windows ユーザー マニュアル』の第 2 章を参照してください。

トランザクション設定ファイル (ttdconf.mwc)

アプリケーション応答測定 (ARM: Application Response Measurement) API コールを備えたアプリケーションのトランザクション データを監視できます。ttdconf.mwc ファイルを使用すると、各トランザクションの条件を満たすように、トランザクション名、アプリケーション名、パフォーマンス分布範囲、およびサービス レベルの目標を定義できます。トランザクション追跡の詳細については、『HP OpenView Performance Agent for Windows トランザクション追跡』を参照してください。

データ収集のカスタマイズ

拡張収集ビルダおよびマネージャにより、Windows レジストリ カウンタのデータ収集をカスタマイズ / 設定することができます。Windows レジストリ カウンタの収集を構築し、管理する方法の詳細は、「拡張収集ビルダおよびマネージャ オンライン ヘルプ」を参照してください。このオンライン ヘルプを利用するには、**OV Performance Agent** のメイン ウィンドウの **[Configure]** メニューから、**[Extended Collections]** を選択します。次に、**[Extended Collection Builder and Manager]** ダイアログ ボックスの **[Help]** ボタンをクリックしてください。

データ ソース統合 (DSI: Data Source Integration) 技術を使用すると、別の方法でデータ収集をカスタマイズできます。データ収集方法の設定後に、DSI を使用してデータを OV Performance Agent に送信できます。DSI の使用に関する詳細は、『OV Performance Agent for Windows データ ソース統合ガイド』を参照してください。

アラームの定義

パフォーマンスをモニタするためにアラームを使用する場合、OV Performance Agent の `alarmdef` ファイルにあるアラーム定義セット内でアラーム発生条件を指定します。OV Performance Agent を初めてインストールした場合、`alarmdef` ファイルにはデフォルトのアラーム定義セットが含まれています。このデフォルトの定義を使用するか、または必要な場合はカスタマイズすることが可能です。

アラームの定義についての詳細は、『HP OpenView Performance Agent for Windows ユーザー マニュアル』の第7章「パフォーマンス アラーム」を参照してください。第7章では、アラーム定義の構文、アラームの機能、パフォーマンスをモニタするためのアラームの使用方法について説明しています。

コマンド プロンプトからの OV Performance Agent サービスの制御

OV Performance Agent サービスは、Windows コマンド プロンプト、または次のような `ovpacmd` (`ovpacmd.exe`) コマンドを使用するバッチ ファイルから開始および終了することができます。

これらのコマンドを実行するには、Administrators または Power Users グループのメンバーである必要があります。

- **ovpacmd stop**
OV Performance Collector および OV Performance Agent サービスを終了します。
- **ovpacmd start**
OV Performance Collector、OV Performance Agent、Transaction Manager、Extended Collection の各サービスを開始します。
- **ovpacmd start dsi**
`dsiconf.mwc` ファイルで設定されているデータ送信を継続的に記録するためのデータ ソース統合サービスを開始します。
- **ovpacmd stop dsi**
`dsiconf.mwc` ファイルで設定されているデータ送信を継続的に記録するためのデータ ソース統合サービスを終了します。

コマンド プロンプトの使用例としては、業務時間外に使用するアラーム定義を自動的に別のセットに切り替える場合に、バッチ ファイルから OV Performance Agent のサービスを再開始して、OV Performance Agent 設定ファイルをリフレッシュすることが挙げられます。<InstallDir>\data ディレクトリに代替の `alarmdef.mwc` ファイルをコピーするコマンドを、バッチ ファイルに含めます。

バックアップに関する考慮点

OV Performance Agent がインストールされ、稼働中の Windows システムをバックアップするときには、次の点に注意してください。

- システムをバックアップするために、OV Performance Agent のサービスを終了する必要はありません。
- バックアップ中に OV Performance Agent のサービスが稼働している場合、次に示すファイルはバックアップされません。OV Performance Agent を開いている場合は、追加ファイルもバックアップの対象外となることがあります。使用しているバックアッププログラムに、開いているファイルをバックアップするためのオプションがある場合、このオプションを設定すると、同ファイルもバックアップできます。

```
<InstallDir>\data\status.scope  
<InstallDir>\data\status.mi  
<InstallDir>\data\status.perflbd  
<InstallDir>\data\status.ttd  
<InstallDir>\data\status.rep_server  
<InstallDir>\data\status.alarmgen  
<InstallDir>\data\datafiles\logindx  
<InstallDir>\data\datafiles\logglob  
<InstallDir>\data\datafiles\logappl  
<InstallDir>\data\datafiles\logproc  
<InstallDir>\data\datafiles\logdev  
<InstallDir>\data\datafiles\logtran  
<InstallDir>\data\datafiles\agdb  
<InstallDir>\data\datafiles\agdb.lk  
<InstallDir>\data\datafiles\perflbd.pid
```

- OV Performance Agent の稼働中に、OV Performance Agent のログ ファイルをバックアップする場合は、それぞれの生ログ ファイル (logglob、logappl、logproc、logdev、および logtran) に含まれるデータの量が、多少異なることもあります。この状況は、各ファイルがわずかに時間をずらしてバックアップされるために生じます。このため、バックアップ テープからログ ファイルを復元する必要がある場合、データの解釈が難しくなることがあります。

- システムをバックアップする前に **OV Performance Agent** のサービスを終了するには、**OV Performance Agent** のメイン ウィンドウの **[Agent]** メニューから **[Start/Stop]** を選択します (この章で前述されている手順により、**Windows** コントロールパネル、コマンド プロンプト、またはバッチ ファイルを使用して、**OV Performance Agent** サービスを終了することもできます)。
- バックアップが終了したら、**OV Performance Agent** サービスを再開始します。



OV Performance Agent サービスの終了と開始により、データ収集が停止している間のログ ファイルに相違が生じます。

自動バックアップ

自動バックアップの前に、**OV Performance Agent** を終了する場合は、バッチ ファイルを用いて、**OV Performance Agent** サービスを制御します。その後、バックアップが終了したら、**OV Performance Agent** を自動的に再開始することができます。

索引

A

authip ファイル, 41
 フォーマット, 42
 例, 42

C

Collector サービス
 開始, 47
 終了, 47

D

DHCP サーバー サービス
 無効, 13
DNS ネーム サーバー, 13
Domain Name System ネーム サーバー, 13
Dynamic Host Configuration Protocol、「DHCP
 サーバー サービス」を参照

H

HOSTS ファイル
 DNS を使用しない場合の要件, 13
HTTP
 プロキシ, 32

I

IP アドレス
 変更, 44
IP アドレスの変更, 44

M

Microsoft RPC サービス、開始, 15
mwacmd.exe ユーティリティ, 14, 26, 47, 49

O

OV Operations
 OVPA のインストールに使用, 17
OVPA
 ステータス ファイル, 29
OV Performance Agent
 OVO を使用したインストール, 17
 アンインストール, 18
 開始, 14, 26, 47
 起動時, 23
 コマンド ライン インターフェイス, 14, 26,
 47
 終了, 14, 26, 47
 設定プログラム, 15
 デフォルト収集パラメータ, 45
 ドキュメント一覧, 20
 トランザクション データの監視, 46
 ネットワークに関する考慮点, 13
 必要なディスク スペース, 11
 リリース ノート, 21
OV Performance Agent Collector サービス
 開始, 47
 終了, 47

OV Performance Agent サービス , 17
開始 , 14, 26, 47
コマンド ラインからの制御 , 14, 26, 47
終了 , 14, 26, 47
セキュリティに関する制限 , 25

OV Performance Agent 用のコントロールパネル
アプレット , 11, 17

OVPM
ファイアウォール通信用の HTTP プロキシ
を使用しない設定 , 35
ファイアウォール通信用の HTTP プロキシ
を使用する設定 , 34

R

Reporter
ファイアウォール通信用の HTTP プロキシ
を使用する設定 , 34, 35

RPC サービス、開始 , 15

T

TCP/IP プロトコル
OV Performance Agent の要件 , 13

W

Windows
一時ディレクトリ , 12, 17
インストールディレクトリ , 17
パス変数 , 17, 19

あ

アラーム
1 日のさまざまな時間帯での切り替え , 47

アラーム切り替え , 47

い

一時ディレクトリ , 17
使用 , 12

印刷可能なファイル , 20

インストールの手順 , 14

インストール要件
ネットワーク , 13
ハードウェア , 9

か

開始
Microsoft RPC サービス , 15
OV Performance Agent , 14, 23, 26, 47
OV Performance Agent サービス , 14, 26, 47

外部データの記録 , 44

カスタマイズ
データ収集パラメータ , 45

監視
トランザクション データ , 46

く

クライアント認証 , 40

クライアント、ファイアウォール , 32

こ

コマンド ラインからのサービスの制御 , 14, 26, 47

さ

サーバー、ファイアウォール , 32

参照
UNIX での PDF ドキュメント , 22
Web に掲載されているドキュメント , 21

し

自動バックアップ , 49

収集パラメータ , 12, 45

終了

- OV Performance Agent, 14, 26, 47
- OV Performance Agent サービス, 14, 26, 47
- インストール前にプロセスを終了, 14

す

[スタート] の [プログラム] メニュー、RPM
ツール フォルダ, 17

- ステータス ファイル, 29
 - coda.txt, 29
 - status.alarmgen, 29
 - status.mi, 29
 - status.perfalarm, 29
 - status.perflbd, 29
 - status.rep_server, 29
 - status.scope, 29
 - status.ttd, 29

ストライプ処理されたディスク、データの収
集, 17

せ

- セキュリティ要件
 - アンインストールについて, 14, 18
 - サービス用, 25

設定プログラム, 15

て

ディレクトリのサンプル
README, 30

データ収集パラメータ, 45

データ ソース、PerfView 追加
データ ソースの追加, 44

データ ソース統合

- PerfView でデータを表示, 44
- PerfView のデータに関するアラーム, 44

データ ディレクトリ, 12

デフォルト
収集パラメータ, 45

と

ドキュメント

- OVPA ドキュメント一覧, 20
- UNIX での PDF ファイルの参照, 22
- Web で参照, 21

ドキュメントの印刷, 20
トランザクション追跡, 46

ね

ネットワークに関する考慮点, 13

は

パス変数, 19
OV Performance Agent による変更, 17

バックアップ、自動, 49

バックアップに関する考慮点, 48

バッチ ファイル, 14, 26, 47, 49

パフォーマンス データ
記憶領域要件, 11
収集, 45

パフォーマンス データの記録, 12
デフォルト パラメータ, 45

ひ

必要なディスク スペース, 11

必要なハードウェア, 9

ふ

ファイアウォール

HTTP プロキシを使用しない、Reporter または OVPM の設定 , 35

HTTP プロキシを使用する、Reporter または OVPM の設定 , 34

OVPA 通信設定の概要 , 33

OVPA との通信用デフォルト ポート , 32
クライアント , 32

サーバー , 32

ファイアウォールを介した通信 , 31, 37

複数の IP アドレスを持つシステム , 36

ファイル

authip, 41

status.scope, 29

プロキシ、HTTP, 32

め

メトリックの定義、印刷 , 20

り

リモート プロシージャ コール サービス、開始 , 15

リリース ノート , 21

ろ

ログ ファイル

アンインストール プログラムでは削除されない , 19

管理 , 12, 45

最大サイズ , 12

相違 , 49

ディスク容量の要件 , 12

バックアップ , 48